

【作文の部】 文芸賞

がんばれば奇跡が起こる

宮川小学校 六年 本田 敦大

「やった、泳げた。」

ぼくの順位は、後ろから二番目でした。七月二十四日の町水泳大会。ぼくは、順位には、満足しませんでした。が、何よりも五十メートルを泳ぎきれた事に満足しました。

六月の下旬、水泳の授業が始まりました。そのころぼくは、五十メートル泳げませんでした。それどころか、二十メートルも泳げませんでした。始めのうちには、クラスに他にも、五十メートル泳げない子がいました。でも、しばらくすると、クラスの中で五十メートル泳げないのは、ぼく一人だけになってしまいました。みんなからは、

「がんばれ。」

と言われました。でも、(ぼくだけ泳げなくて、六年生じゃないみたいだ。) と思っていました。そのとき、恵先生が「マイナスのことより、プラスのことを考えよう。泳げるかもしれないと思えば、泳げるよ。」

と言いました。だから、がんばろうと思いました。練習をして、難しかったのは息つきです。すぐに苦しくなって、足をついてしまいました。恵先生が

「水の中で息を吐けば、息つきしたとき、たくさん息を吸えるよ。」

と教えてくれました。そのようにしてみたら、二十五メー

トル泳げるようになりました。ぼくは、(地道に練習しよう。)と思いました。

そう行会の日、ぼくたち六年生を、全校生が応援してくれました。そして、校長先生が

「がんばれば奇跡が起こる。」

と話してくれました。ぼくは、校長先生の言葉と、恵先生の言葉でがんばろうと思いました。

奇跡が起こったのは、七月十八日のことでした。水泳の時間に、(とにかくがんばろう。)と思って泳ぎ始めました。まず二十五メートル泳いでターンしました。息つぎの時、みんなの応援が聞こえてきました。そして水の中でも、振動して聞こえたような気がしました。ぼくは、(がんばれば奇跡が起こる。)と思いながら泳ぎました。そして、とうとう五十メートル泳ぎきることができました。みんなが拍手をして喜んでくれました。ぼくは、とても苦しかったけれどがんばって奇跡を起こせて良かったと思いました。

五十メートル泳げるようになってから、ぼくは少し自信がついて、町水泳大会でも、泳ぎきることができました。がんばれば奇跡は起こる。これから、中学生になって、色々なことにつまずいた時も、プラスのことを考え、がんばろうと思います。それを教えてくれた、校長先生と恵先生に感謝したいです。がんばったことを結果にできて良かったです。

奇跡は努力の結晶です。

